



アーティチョーク

Cynara scolymus L. キク科 (Asteraceae)

地中海沿岸とカナリア諸島に分布します。フランス料理やイタリア料理ではお釈迦様のあたまのような蕾の中心部などを食材として用い、アスパラののような食感を楽しむことができます。もともとは棘の多い植物でしたが、食用にするために棘の少ない品種が作出されました。葉には肝保護^{※1}作用があります。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻1。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1992，278p.



アイ

Persicaria tinctoria (Aiton) Spach タデ科 (Polygonaceae)



生薬名:ランヨウ(藍葉)・ランジツ(藍実)

薬用部位:葉・果実

古く中国から日本に伝えられ、分布はベトナム南部と考えられている一年草です。徳島県、鹿児島県、沖縄県などで生産栽培されています。草丈は50～60cmで10月に穂状花序の小さな花を密生します。薬効としては鎮痛^{※1}、解毒^{※1}作用などがあります。染料植物として有名で、日本の歴史では奈良時代に中国から朝鮮半島を経て栽培方法と染色技法が伝来しました。江戸時代には庶民に木綿の衣類が普及し、それを染める藍の需要が増大しましたが、明治以降には化学合成染料にとって代わられました。中国の儒学者:荀子(じゅんし)の「勸学篇」にある「青は藍より出で藍より青し」のことわざは、青い色はアイからとって染めるが、もとのアイの葉よりもきれいな青になることから転じ、先生より弟子のほうが才能がすぐれていることの意味です。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻4。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，264p.



アオキ

Aucuba japonica Thunb. var. *japonica* アオキ科 (Aucubaceae)



生薬名:サイキントウエイサンゴ(灑金東瀛珊瑚)

薬用部位:果実・根

関東以西の本州、四国、九州、沖縄、朝鮮半島の樹林下に分布する常緑低木です。3～5月に褐色の花弁を4枚有する単性花(雌雄異株)を咲かせます。果実は大きさ2cmほどの楕円形で種子を1個含み、秋頃から赤く熟します。果実の色、斑入りなど園芸品種も多く、庭木として利用されます。和名の由来は常緑で枝も青いことなどから呼ばれます。葉にはオイコミオシド(モノテルペノイド)などを含みます。薬用として関節リウマチ^{※1}に利用されます。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻3。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，258p.



アカキナノキ

Cinchona pubescens Vahl アカネ科 (Rubiaceae)



生薬名: キナヒ(キナ皮) 薬用部位: 樹皮

南アメリカ、特にペルーの熱帯山岳地帯に分布している常緑高木で花は淡緑色の鐘状のものを着けます。本種又は、ボリビアキナノキ(*C. ledgeriana* Vahl)の樹皮を天日乾燥したものが生薬「キナヒ」で、主成分キニーネは抗マラリア^{※1}作用があり、マラリアの特効薬として有名で、かつてマラリア治療薬として日本薬局方に収載されていました。1930年代にはジャワ島の高地で栽培が成功して世界の「キナ皮」の90%が生産されていましたが、近年では合成品が作られるようになり、生薬の需要は激減しました。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ, 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて, 難波恒雄監訳, 東京, 株式会社誠文堂新光社, 2000, 334p.



アカジソ

Perilla frutescens (L.) Britton var. *crispa* (Benth.) W.Deane f. *purpurea* (Makino) Makino シソ科 (Lamiaceae)



(局方)*Perilla frutescens* Britton var.*crispa* W. Deane シソ科 (Labiatae)

生薬名:ソヨウ(紫蘇葉・蘇葉) 薬用部位:葉・枝先

中国中南部に分布する一年草です。古くより日本に渡来し、食用、薬用に各地で広く栽培されるようになりました。草丈50～100cm、茎は直立し、断面は四角形になります。生薬「ソヨウ」は本種の葉で、ペリルアルデヒド(モノテルペノイド)などの成分を含み、抗菌^{※1}などの作用があります。新しいほど良いとされている生薬の一つです。一般用漢方製剤294処方のうち、香蘇散(こうそさん)など11処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



アカメガシワ

Mallotus japonicus (L.f.) Müll.Arg. トウダイグサ科 (Euphorbiaceae)



(局方)*Mallotus japonicus* Muell. Arg. var. *argovianus*

生薬名: アカメガシワ 薬用部位: 樹皮

本州、四国、九州の日当たりの良い山野に分布する落葉高木で雌雄異株です。木の成長が早く、荒地に真っ先に生育するパイオニア植物です。アカメガシワはベルゲニン(タンニン類)などを含み、整腸^{※1}などの作用を有し、それらのエキス剤が便秘を整える医薬品として利用されています。赤芽櫨(あかめがしわ)は芽(新葉)が紅赤色で、この成葉がカシワ(*Quercus dentata* Thunb.)と同じように食物をのせるのに用いられたのでこの名がつけられました。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



アケビ

Akebia quinata (Houtt.) Decne. アケビ科 (Lardizabalaceae)



生薬名: モクツウ(木通) 薬用部位: 茎

東アジアに分布する落葉性のつる植物です。4～5月に雌雄異花の花序を着けます。生薬「モクツウ」は本種のつる性の茎を、通例、横切したもので、アケボシド(サポニン)などを含み、利尿^{※1}、通経^{※1}、消炎^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、加味解毒湯(かみげどくとう)、通導散(つうどうさん)など8処方に配合されています。また、長く伸びた蔓は、カゴ作りをはじめとするクラフト用の素材としても用いることができます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



アサガオ

Ipomoea nil (L.) Roth ヒルガオ科 (Convolvulaceae)



(局方) *Pharbitis nil* Choisy

生薬名: ケンゴシ(牽牛子) 薬用部位: 種子

中国南部から東南アジアにかけて分布するつる性の一年草です。草丈は1.5～2.5mになり、7月～8月に開花します。本種は代表的な短日植物で、日長が短くなると花芽を分化する習性があります。日本へは 奈良時代～平安時代に伝わったとされ、江戸時代に入って紫色、赤色、茶色などの花が作出されました。生薬「ケンゴシ」は本種の種子で、ファルビチン(樹脂配糖体)などの成分を含み、緩下^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、八味疝気方(はちみせんきほう)の1処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



アジサイ

Hydrangea macrophylla (Thunb.) Ser. f. *macrophylla* アジサイ科 (Hydrangeaceae)



生薬名: ハッセンカ(八仙花) 薬用部位: 根・葉・花

神奈川県や伊豆七島に野生しているガクアジサイ (*Hydrangea macrophylla* (Thunb.) Ser. f. *normalis* (E.H.Wilson) H.Hara) から品種改良された落葉低木で、排水の良いやや湿った日陰を好みます。ヨーロッパでも多くの品種が育成され、セイヨウアジサイ (*Hydrangea macrophylla* (Thunb.) Ser. f. *hortensia* (Lam.) Rehder) と呼ばれています。ガクアジサイの花形を額縁型、アジサイ形を手毬型に区分しています。土壌の酸度により花の色が変化することが知られており、酸性の土壌では花の色は青くなりますが、中性に近づくと桃色に発色することから、pHを調節するアジサイ用の肥料が市販されています。薬用には抗マラリア^{※1}、抗不安^{※1}を期待して使用されます。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻2。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，278p.



アセロラ

Malpighia emarginata DC. キントラノオ科 (Malpighiaceae)



西インド諸島、南アメリカ北部から中央アメリカに分布する常緑低木です。日本には大正時代に初めて導入されたと言われていたますが、確かな記録としては1958年沖縄県にヘンリー中宗根(ハワイ大学教授)が導入したとされています。現在、国内では沖縄県本部町や名護市、鹿児島県指宿市などで栽培されています。果実はサクランボに似た鮮やかな赤色を呈し、この形からバルバドスサクラ(Barbados Cherry)の別名があります。さらに、果実に含まれるビタミンCの量は、天然食品の中でも非常に多い部類に入ります。生産地では生食されるので風味を楽しむことができますが、収穫後の傷みが早いので一般には清涼飲料水、ジャム、ゼリーなどに加工されることが多く、アセロラ自体の味を感じることはできません。





アニス

Pimpinella anisum L. セリ科 (Apiaceae)



地中海東部沿岸に分布する一年草で、日当たりがよく、乾燥したやせ地に自生します。高さ40～70cmになり、7～9月に白色の小花を多数つけます。秋に収穫する果実は、アネトールなどの精油成分を含み、整腸^{※1}作用などを期待して用いられます。また、「アニスシード」や「アニシード」と呼ばれる香辛料として、料理の香りづけや臭い消しなどにも利用されます。本種は、最も古い香辛料の一つで、4000年以上前からエジプトで栽培されていた記録が残っており、エジプトではミイラの防腐剤としても利用されていました。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ, 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて, 難波恒雄監訳, 東京, 株式会社誠文堂新光社, 2000, 334p.



アマチャ

Hydrangea serrata (Thunb.) Ser. var. *thunbergii* (Siebold) H.Ohba アジサイ科 (Hydrangeaceae)



(局方)*Hydrangea macrophylla* Seringe var. *thunbergii* Makino

ユキノシタ科 (Saxifragaceae)

生薬名: アマチャ(甘茶) 薬用部位: 葉・枝先

日本の本州の山林に自生する落葉低木で、排水の良いやや湿った日陰を好みます。繁殖は株分けまたは挿し木で行います。生薬「アマチャ」は本種の葉及び枝先を、通例、揉捻したもので、フィロズルシン(イソクマリン関連化合物)などの成分を含み、抗酸化^{※1}、抗菌^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に丸剤などの甘味、矯味用として家庭薬原料、口腔清涼剤の製造原料として利用されます。4月8日に釈迦の降誕を祝して行われる灌仏会(かんぶつえ)では、お参りする時に釈迦像の頭上から甘茶湯を注ぐ、いわゆる「花祭り」に使用されます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



アマハステビア

Stevia rebaudiana (Bertoni) Bertoni キク科 (Asteraceae)



南米パラグアイ原産の多年草ですが、わが国の寒冷地では戸外での越冬が難しく、冬は室内で管理します。夏に白い小さな花を咲かせ、栽培品では高さ50～100cmになります。葉に含まれる甘味成分は2種類の配糖体で、砂糖の約300倍の甘さがあるといわれています。それらの含量には大きな個体変異があり、優良なものを残すには挿し芽か株分けで殖やします。本種の甘味成分は、水やアルコールに溶けやすく、加熱による変化も少なく、毒性も全くないことから、最近ではガム、清涼飲料、氷菓などダイエット食品や飲料の添加物として用いられています。しかし、濃度が高いと苦味を感じるようになり、実際にはショ糖濃度20%のうち5%分の代替えとして使用されているにすぎません。





アレクサンドリアセンナ

Senna alexandrina Mill. マメ科 (Fabaceae)



(局方) *Cassia acutifolia* Delile マメ科 (Leguminosae)

生薬名: センナ 薬用部位: 小葉

アフリカ東部のナイル川中流域原産の多年草です。インド南端のチンネベリー地方で栽培されるものには「チンネベリセンナ」の別名もあります。小葉を生薬「センナ」とします。高温、乾燥、強日射を好むため、湿潤な日本の気候に適合しにくく、かろうじて標本植物として温室栽培などで維持されています。瀉下^{※1}作用は広範かつ強烈なので、即効性の便秘薬(峻下剤)として用いられています。センナに含まれるセンノシドは胃や小腸で消化されず、大腸に達してから腸内細菌によってレインアンスロンに分解され、瀉下効果を現します。副作用として、しばしば腹痛を伴うことがあるため、慎重に使用することが重要です。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



アンズ

Prunus armeniaca L. バラ科 (Rosaceae)



(局方)*Prunus armeniaca* Linné var.*ansu* Maxim.

生薬名:キョウニン(杏仁) 薬用部位:種子

中国北部に分布する落葉小高木で、世界各地で果樹として栽培されます。医者 of 美称に「杏林」という言葉がありますが、これは呉の名医・薫奉が治療代の代わりにアンズの木を植えさせていたところ、立派な林になり沢山の実が得られるようになったという「神仙伝」の説話に由来したものです。一般に種子とされている部分は核という部位で、例えばウメでは核と果肉がきれいに離れない性質(粘核性)を示すのに対し、アンズでは離れる性質(離核性)を持っています。核の中にある種子には、青酸配糖体のアミグダリンを含み鎮咳^{※1}作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、麻黄湯(まおうとう)、麻杏甘石湯(まきょうかんせきとう)など18処方に配合されています。果実は生食のほか、乾果、シロップ漬けなどに利用されます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ~語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



イカリソウ

Epimedium grandiflorum C.Morren var. *thunbergianum* (Miq.) Nakai ムギ科 (Berberidaceae)



(局方)*Epimedium grandiflorum* Morren var. *thunbergianum* Nakai

生薬名: インヨウカク(淫羊藿) 薬用部位: 地上部

日本の北海道南部から本州の太平洋側に分布する多年草で、樹林下の木漏れ日があたるような場所に生育します。草丈30～50cmになり、4～5月に船の四爪錨(よつめいかり)に似た花を咲かせることから和名が付けられました。生薬「インヨウカク」は本種の地上部で、イカリイン(フラボノイド)などの成分を含み、強壮^{※1}、強精^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に滋養強壯のドリンク剤や薬用酒に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



イネ

Oryza sativa L. イネ科 (Poaceae)

(局方)*Oryza sativa* Linné イネ科 (Gramineae)

生薬名: コウベイ(粳米) 薬用部位: えい果

日本では一年草として栽培されていますが、本来はインドおよび東南アジア原産の多年草です。日本には縄文時代晩期に渡来したといわれています。草丈は50～100cmで6～7月の開花時には直立していますが、9月以降にえい果と呼ばれる果実が充実してくると垂れた稲穂となります。生薬「コウベイ」は本種のえい果で、でんぷん、デキストリンなどの成分を含み、滋養^{※1}、緩和^{※1}、止痛^{※1}、止咳^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、麦門冬湯(ばくもんどうとう)、白虎加桂枝湯(びゃっこかけいしとう)など8処方に配合されています。米には「うるち米」と「もち米」があり、生薬で使用するのは、「うるち米」の玄米です。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



イノコヅチ

Achyranthes bidentata Blume var. *japonica* Miq. ヒユ科 (Amaranthaceae)



(局方)*Achyranthes fauriei* Lev. et Vaniot

生薬名:ゴシツ(牛膝) 薬用部位:根

日本の本州～九州、中国に分布する多年草です。草丈50～100cmになり、8～9月に花を咲かせます。根が土中深くまで伸長する畑の雑草で、種子は「ひつつき虫」の一種としても知られています。生薬「ゴシツ」は本種の根で、エクジステロンなどの成分を含み、抗アレルギー※¹、抗腫瘍※¹などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、牛車腎気丸(ごじゃじんきがん)、牛膝散(ごしつさん)など7処方に配合されています。



※¹原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



イランイランノキ

Cananga odorata (Lam.) Hook.f. et Thomson バンレイシ科 (Annonaceae)



インドからオーストラリア北東部にかけて分布する熱帯性常緑高木で20mにまで成長します。現在でも、東南アジア各地で栽培され、特にシンガポールの並木は有名です。植物名のイランイラン「Ylang Ylang」は、マレー語で『花の中の花』という意味を示し、エキゾチックで濃厚な香りを漂わせます。花から採られた精油は「イランイラン油」とよばれ、主成分リナロールを含み、鎮静^{※1}作用があることからアロマにもよく使われます。モルッカ(インドネシア東部)の人は、イランイラン、ココナッツおよびウコンの花から「ボリボリ」と呼ばれる塗り薬を作ります。花は一年中咲いていますが、品質の良い精油は5～6月の早朝に摘まれたものから抽出されます。一番目に蒸留される精油は特級品となり、以降順に「1級」「2級」「3級」となります。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ, 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて, 難波恒雄監訳, 東京, 株式会社誠文堂新光社, 2000, 334p.



インドジャボク

Rauvolfia serpentina (L.) Benth. ex Kurz キョウチクトウ科 (Apocynaceae)

インド、タイ、マレー半島などの熱帯アジアに分布し、湿気のある森林の林床に自生する常緑低木です。和名の「インドジャボク(印度蛇木)」の由来は、根の形状がヘビに似ていること、古来インドで毒ヘビによる咬傷の治療薬として根を用いたことなどいくつかの説があります。通常、成分含量の高い4年生の根茎および根を掘り取り、水洗いしてから天日で乾燥させたものを「ラウオルフィア根」と称します。降圧^{※1}作用のあるレセルピンが含まれていますが、現在では、合成品が使用されています。同属植物のヨツバジャボク(*R. tetraphylla* L.)やホウライアオキ(*R. verticillata* Baill.)にも同じ成分が含まれます。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻3。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，258p.



ウイキョウ

Foeniculum vulgare Mill. セリ科(Apiaceae)



(局方)*Foeniculum vulgare* Miller セリ科(Umbelliferae)

生薬名:ウイキョウ(茴香) 薬用部位:果実

コーカサス地方から地中海沿岸西部に分布する、大型の多年草です。高さ2mに達し、植物全体に香りがあります。生薬「ウイキョウ」は、本種の果実で、アネトール(精油)などの成分を含み、健胃^{※1}、去痰^{※1}作用などがあります。一般用漢方製剤294処方のうち、安中散(あんちゅうさん)など4処方に配合されているほか、市販の胃腸薬にも配合されています。果実は「フェンネルシード」とも呼ばれ、魚や肉を用いたスープ、シチュー調理などに用います。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ウコン

Curcuma longa L. ショウガ科 (Zingiberaceae)



生薬名:ウコン(鬱金) 薬用部位:根茎

インドに分布する多年草です。草丈1m前後になり、7～8月に開花します。日本には江戸中期(1700年代)に渡来し、現在は沖縄県や鹿児島県の種子島などで栽培されています。生薬「ウコン」は本種の根茎で、クルクミン(クルクミノイド)などの成分を含み、利胆^{※1}、肝保護^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、中黄膏(ちゅうおうこう)に配合されています。カレーの色付けに用いられるターメリックとしても有名です。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ウスバサイシン

Asarum sieboldii Miq. ウマノスズクサ科 (Aristolochiaceae)



(局方)*Asarum sieboldii* F.Maekawa

生薬名:サイシン(細辛) 薬用部位:根・根茎

日本の本州～九州北部、朝鮮半島、中国東北部に分布する多年草です。山中の比較的湿った日陰にひっそりと生育し、ヒメギフチョウの食草としても有名です。生薬「サイシン」は本種の根及び根茎で、メチルオイゲノール(精油)などの成分を含み、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}、解熱^{※1}、鎮痛^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、小青竜湯(しょうせいりゅうとう)、麻黄附子細辛湯(まおうぶしさいしんとう)など13処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ウド

Aralia cordata Thunb. ウコギ科 (Araliaceae)



生薬名: ドクカツ(独活) 薬用部位: 根茎

日本、朝鮮半島、中国に分布する多年草です。草丈50～150cmになり、8～9月に花を咲かせます。生薬「ドクカツ」は本種の、通例、根茎で、オストロール(クマリン)などの成分を含み、発汗^{※1}、駆風^{※1}、鎮痛^{※1}、利尿^{※1}、消炎^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、十味敗毒湯(じゅうみはいどくとう)、独活湯(どっかつとう)など7処方に配合されています。若芽や若葉は春の山菜として食卓を彩ります。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ウメ

Prunus mume Siebold et Zucc. バラ科 (Rosaceae)



生薬名: ウバイ(烏梅)

薬用部位: 未熟果実

中国に分布する落葉小高木で、日本には弥生時代に渡来したことが遺跡の発掘調査で明らかにされています。和名の語源には、生薬「ウバイ」をウメイ(wu mei)と呼んだのが転化した、ウムミ(熟実)が転化したなどの諸説があります。馴染み深い「梅干」は日本独自で、江戸時代以降に庶民に普及した食べ物です。また、学業祈願で有名な京都の北野天満宮は、ウメの果実が新年の御祝用の「大福梅」に供されるとともに神紋にも「梅鉢紋」が使われるなどウメとの深い関係があります。生薬「ウバイ」はクエン酸(ヒドロキシトリカルボン酸)などを含み、止瀉^{※1}、解熱^{※1}、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}に用いられます。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



ウルカンゾウ

Glycyrrhiza uralensis Fisch. ex DC. マメ科 (Fabaceae)



(局方) *Glycyrrhiza uralensis* Fischer マメ科 (Leguminosae)

生薬名:カンゾウ(甘草) 薬用部位:根・ストロン

中国からヨーロッパ南部に分布する多年草で、根を垂直方向に、ストロンを水平方向にそれぞれ伸ばします。生薬「カンゾウ」は本種の根及びストロンで、甘味成分のグリチルリチン(トリテルペン配糖体)などを含み、去痰^{※1}、鎮咳^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、葛根湯(かっこんとう)、十全大補湯(じゅうぜんたいほとう)など最も多い212処方に配合されています。さらに、甘味剤として市販の味噌・醤油などにも多用されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ウンシュウミカン

Citrus unshiu (Swingle) Marcow. ミカン科 (Rutaceae)

(局方) *Citrus unshiu* Markovich

生薬名: チンピ (陳皮) 薬用部位: 果皮

本種の名は、中国浙江省の温州にちなんで命名されましたが、温州原産ではなく日本原産とされる常緑低木です。本種の親は長年不明でしたが、近年の DNA 鑑定の結果、種子親がキシウミカン (*Citrus reticulata* Blanco 'Kinokuni')、花粉親がクネンボ (*Citrus aurantium* L. Tangor Group) であることが推定されました。

生薬「チンピ」は本種の成熟した果皮で、ヘスペリジン (フラボノイド) などの成分を含み、芳香・苦味健胃^{※1}、鎮咳^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、香蘇散 (こうそさん)、平胃散 (へいいさん)、補中益気湯 (ほちゅうえっきとう) など48処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) 〜語源から覚える植物学・生薬学名単語集〜. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



エゾネギ

Allium schoenoprasum L. var. *schoenoprasum* ヒガンバナ科 (Amaryllidaceae)

北半球の温帯～寒帯に広く分布する多年草です。和名はエゾネギですが、ハーブ名のチャイブの方が一般的な名称です。西洋料理で用いられるハーブとしても有名です。近縁種(変種)のアサツキ(*A. schoenoprasum* L. var. *foliosum* Regel)は、九州を除くわが国とシベリアに分布し、薬味として使われています。





エビスグサ

Senna obtusifolia (L.) H.S.Irwin et Barneby マメ科 (Fabaceae)



(局方) *Cassia obtusifolia* Linné マメ科 (Leguminosae)

生薬名: ケツメイシ(決明子) 薬用部位: 種子

中央アメリカに分布する一年草で、熱帯アジア各地および日本でも広く栽培されています。草丈70～150cmで、6～8月に黄色の花を咲かせます。生薬「ケツメイシ」は本種の種子で、オブツシフォリン(アントラキノン類)などの成分を含み、緩下^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。ハブ茶は同属植物のハブソウ *Senna occidentalis* (L.) Linkの種子を用いて作られてきましたが、現在、市販されている多くのハブ茶はより栽培しやすく、収量の多い本種の種子が用いられています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



エンゴサク

Corydalis yanhusuo (Y.H.Chou et C.C.Hsu) W.T.Wang ex Z.Y.Su et C.Y.Wu ケシ科 (Papaveraceae)



(局方)*Corydalis turtschaninovii* Besser forma *yanhusuo* Y.H.Chou et C.C.Hsu

生薬名:エンゴサク(延胡索) 薬用部位:塊茎

中国東部に分布する多年草です。草丈10～20cmになり、3～4月に花を咲かせます。初夏には休眠に入り茎葉が枯れ、土中に球根状の塊茎を形成します。生薬「エンゴサク」は本種の塊茎を、通例、湯通ししたもので、プロトピン(アルカロイド)などの成分を含み、鎮痙^{※1}、鎮痛^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、安中散(あんちゅうさん)、牛膝散(ごしつさん)など8処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



エンジュ

Styphonolobium japonicum (L.) Schott マメ科 (Fabaceae)



生薬名: カイカ(槐花)・カイカク(槐角) 薬用部位: 蕾・果実

中国北部に分布する高さ20mに達する落葉高木で、奈良時代に薬用を目的に渡来しました。現在では公害に比較的強いために街路樹などでもよく見かけられます。葉はマメ科植物によく見られる羽状複葉で、裏面は白色を帯びて、短い毛があります。7月頃に小枝の先端に総状花序をだして、淡黄色の蝶形花を多数つけます。蕾(カイカ)ならびに果実(カイカク)にはルチンを含み、ともに止血薬^{※1※2}として用いられます。また「カイカ」はルチンを20%程度を含み、ルチンの抽出原料としても使用されます。中国では古くから高貴な木とされ、周の時代では朝廷の庭に3本のエンジュを植え、大臣の座る位置を示したと言われます。転じて、エンジュの漢名「槐」が大臣の地位を「槐位」と指すようになりました。他の利用方法として、花や蕾は黄色の染色材料になります。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.

※2 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.



オオアザミ

Silybum marianum (L.) Gaertn. キク科 (Asteraceae)

地中海沿岸の南ヨーロッパ、北アフリカ、アジアに分布する一または二年草で、葉には強いトゲがあり、草丈が1m以上になります。5～6月に直径5cmほどのすみれ色がかった紫色の花を咲かせます。種子に含まれるフラボノイド複合体であるシリマリニンには解毒^{※1}、利胆^{※1}、肝保護^{※1}作用があることから、肝臓を守るサプリメントとして、近年、アルコールを多く摂取される方を中心に人気が高まっています。本種は別名マリアアザミとも呼ばれ、聖母マリアに因んだ名が付けられるほど、古来から人々に愛用されています。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻2。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，278p.



オオバコ

Plantago asiatica L. オオバコ科 (Plantaginaceae)



生薬名: シャゼンシ(車前子)・シャゼンソウ(車前草) 薬用部位: 種子・全草

アジア全域に分布する多年草です。草丈10～15cm前後になり、5月～10月の長期にわたり花を咲かせます。道端の雑草の代表格で、人馬に踏まれても負けずに生育する強靱な性質を有していることから轍草(わだちぐさ)の別名があります。生薬「シャゼンシ」は本種の種子で、アウクビン(イリドイド配糖体)などの成分を含み、去痰^{※1}、鎮咳^{※1}、血糖降下^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)、竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)など5処方に配合されています。生薬「シャゼンソウ」は本種の花期の全草で、プラタギニン(フラボノイド)などの成分を含み、去痰^{※1}、鎮咳^{※1}、利尿^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



オールスパイス

Pimenta dioica (L.) Merr. フトモモ科 (Myrtaceae)



中米に分布する常緑小高木で高さ6～9mに達します。オールスパイス(Allspice)の名は三大スパイスのクローブ、シナモン、ナツメグの香味を併せもつことに由来します。本種の果実にはクローブと同様にオイゲノール、メチルオイゲノールを含みます。主にスパイス業界では完熟前の果実が「ピメント」と称され、採取後、約1週間天日乾燥して香辛料として用いられます。中米では、コショウやクローブなど高価な東洋のスパイスに比べて、産地が近く入手が比較的容易であったことから、マヤ文明の頃は多く使用されました。主産地のジャマイカにちなんで「ジャマイカペッパー」とも呼ばれています。





オケラ

Atractylodes ovata (Thunb.) DC. キク科 (Asteraceae)



(局方)*Atractylodes japonica* Koidzumi ex Kitamura キク科 (Compositae)

生薬名:ビャクジュツ(白朮) 薬用部位:根茎

日本および朝鮮半島に分布する多年草です。草丈30～60cmになり、9～10月に花を咲かせます。花色は、開花初期では淡紅色で、序々に白色へと変化します。生薬「ビャクジュツ」は本種の根茎で、アトラクチロン(セスキテルペノイド)などの成分を含み、健胃^{※1}、整腸^{※1}、利尿^{※1}、止汗^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、二朮湯(にじゅつとう)、帰脾湯(きひとう)など65処方に配合されています。そのうち45処方はビャクジュツだけでなく、同様の効果を期待して使われるソウジュツ(蒼朮)を用いてもよいとされています。京都にある八坂神社では、大晦日から元旦にかけて白朮が焚かれる「をけら詣り」が行われます。参拝者は無病息災、厄除けをお参りし、その火を持ち帰ります。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



オニサルビア

Salvia sclarea L. シソ科 (Lamiaceae)



ヨーロッパ中南部に分布する二年草で、日当たりがよく、乾燥した土地に自生します。高さが約1mになり、アキギリ属の中では大型になる種です。地上部は消化促進^{※1}などを期待して用いられます。また本種の油は、食品や飲料の着香、石鹸や化粧品の香料としても利用されています。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ, 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて, 難波恒雄監訳, 東京, 株式会社誠文堂新光社, 2000, 334p.



オニバス

Euryale ferox Salisb. スイレン科 (Nymphaeaceae)



生薬名: ケンジツ(芡実) 薬用部位: 種子

日本の本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、台湾、インドなどに分布する浮葉性の一年草です。生薬「ケンジツ」は本種の種子で、滋養^{※1}、強壮^{※1}などの作用があります。また、多量のデンプンが含まれるため、かつてはお餅に入れて食用にもされていました。本種の野生株は激減しており、環境省レッドリストでは絶滅危惧種Ⅱ類 (VU) に選定されています。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



オニユリ

Lilium lancifolium Thunb. ユリ科 (Liliaceae)



生薬名:ビャクゴウ(百合) 薬用部位:りん片葉

中国、朝鮮半島、日本に分布する多年草で、「りん茎」と呼ばれる球根は百合根として食用にされます。草丈1～2mになり、7～8月に開花しますが、ほとんどの個体は三倍体植物であることから種子を着けることができません。生薬「ビャクゴウ」は本種のりん片葉を、通例、蒸したもので、でんぷんなどの成分を含み、鎮咳^{※1}、鎮静^{※1}、滋養^{※1}、強壮^{※1}、利尿^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、辛夷清肺湯(しんいせいはいとう)の1処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



オリーブ

Olea europaea L. モクセイ科 (Oleaceae)



地中海沿岸地域に分布する常緑樹で、高さ3～10mになります。主に分布域およびアメリカ西海岸などの地域で栽培されています。本種は1本では結実しにくい(自家不和合性)品種が多いため、2品種以上を隣接して植栽したほうが結実数が増加します。日本には江戸時代に渡来し、その後、明治時代に温暖で雨が少ない香川県の小豆島で苗木の栽培に成功しました。熟した果実の果肉を絞って得た油は「オリーブオイル」と呼ばれ、オレイン酸のグリセリドのほか、リノレイン、パルミチンなどが含まれ、乳剤^{※1}、軟膏^{※1}として用いられます。果実は油以外に塩蔵品(ピクルス)としても利用されています。また地球の繁栄や平和のシンボルとして、国連旗にも本種の枝葉がデザインされています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.